

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

1 実践テーマ	【 I, V 】
2 実施対象者	石岡市立杉並小学校 1～6学年（各学年2クラス、特別支援学級3クラス） 児童数352人、参加保護者数10人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 総合的な学習, 体育 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	2020年へ向けて「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」やオリンピックによる講演、関連図書によりオリンピック・パラリンピックへの児童の関心を高める。 オリンピックによる実技指導により走る意欲と技能の向上を図る。
5 取組内容	①「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」 NTTドコモ（6年生児童対象、会場：6年学習準備室） 【講演等】 ・オリンピックメダルの歴史について ・リサイクルについて ・携帯電話のリサイクルについて 【振り返り】各教室での振り返り及びアンケート協力 【回収活動】使用済携帯電話の回収（保護者・職員から）



②北京オリンピック4×100mリレーメダリスト高平慎士さんによる講演（全学年児童対象、会場：体育館）

- オリンピックについて
- 短距離選手の歩幅や歩数について
- 速く走るための方法について
- 夢をもって生きることの大切さ



③北京オリンピック4×100mリレーメダリスト高平慎士さんによる陸上教室（見学1～4年、実技指導5・6年対象）

- 速く走るための様々なトレーニングと走り方の実技指導
- 高平選手との80m競走【振り返り】アンケート調査とお礼のお手紙送付



④オリンピック・パラリンピック関連図書コーナーの設置

図書室内にオリンピック・パラリンピックへの児童の関心を高めるためにコーナーを設置した。

- オリンピックについて
- ロゴマークについて
- オリンピック・パラリンピッククイズ



<p>6 主な成果</p>	<p>6年生を対象とした「都市鉱山から作る！みんなのメダルプロジェクト」では、オリンピック・パラリンピックのメダルの歴史や規格（大きさや重さ）等を知り、実際と同じ規格のメダルを首に掛けたり、触ったりすることでオリンピックへの興味が高まった。また、家族が使っていた携帯電話がメダルになることを知り、オリンピックを以前より身近に感じたという児童の感想が見られた。</p> <p>高平さんの講演によりオリンピックについての様々なことを知り、ウサイン・ボルト選手と桐生選手の走り方を比較したりしながら児童にわかりやすく説明したことにより児童の走ることへの興味が高まった。さらに、陸上の実技指導では、高平選手がジャンプしたり、走ったりするたびに身体能力の高さに児童は驚き、歓声が湧き上がった。本校では、年度末に今年度一番心に残ったこと等を文集にまとめているが、実技指導は見学しただけの低学年児童の中にも、この事業について感動したと作文を書いた児童が何名も見られた。</p> <p>また、翌日の校内持久走大会の事後の作文からは、高平さんに教えていただいた走り方で走ったのでタイムが上がった等の感想が多数書かれていた。</p>
<p>7 実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>最初に「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」事業により6年生児童を中心に携帯電話回収活動で校内のオリンピック・パラリンピックへの児童の関心を高めるよう工夫した。また、実際のオリンピックの講演及び実技指導により、さらに関心を高められるよう工夫した。本校児童全員への実技指導は、時間の制約もあり難しいと判断したので、実技指導は5・6年生児童、1～4年生は見学としたが、1～4年生児童にもオリンピックの身体能力の高さを見ることで、すばらしさを実感できるよう工夫した。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>この事業を行うにあたって、講師の選定が難しいと感じた。講師を依頼するにあたり、所属企業へ直接電話等での交渉となるが、講師として来ていただきたい競技種目の連盟等に連絡すれば講師をある程度紹介していただけるようなシステムはできないか。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>平成31年度はパラリンピックの選手による講演及び種目の紹介等を行うことでパラリンピックへの関心を高め、スポーツを通じたインクルーシブ社会（共生社会）の構築について児童に意識させていきたい。</p>